向井潤吉の素描

民家と自然

作品名不詳 昭和20年代～35年頃

《旧甲州街道 小佛関跡》昭和20年代～35年頃

1996年6月29日[土]—9月29日[日]

開館時間＝午前10時—午後6時(入館は5時30分まで)
休館日＝毎週月曜日(休日にあたるときは翌日)
観覧料＝一般200円(160円) 大高生150円(120円) 中小生100円(80円)
( )内は20名以上の団体料金 65歳以上の方160円

世田谷美術館分館

向井潤吉アトリエ館

〒154 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL 03-5450-9581

《壮大な長屋門》昭和41年

《田麦俣にて(山形県)》昭和40年～50年代

《六十里街道にて[大網部落](山形県東田川郡朝日村大網)》昭和40年～50年代

このたび向井潤吉アトリエ館では、『向井潤吉の素描・民家と自然』展を、開催いたします。

向井潤吉アトリエ館では、平成6年度にも向井潤吉先生の素描作品による『線と淡彩の魅力』展を開催し、先生の素描作品を幅広く展観いたしましたが、このたびの展覧会では、当館が所蔵する素描作品の中から、日本の民家と、それをとりまく自然景観をモティーフとした作品に焦点をあてご紹介いたします。

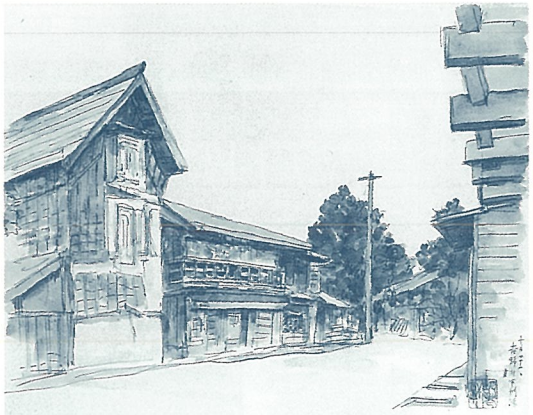
向井先生は、すでに多くの方々がご存じの通り、カンヴァスやスケッチブックを自ら携え、制作現場となる民家や、風景の前にイーゼルを立てて、まさにその土地の光と風の中に身をおき、そして時に、土地に生活する人達との交流を結びながら、制作を重ねてこられました。

こうした現場主義と言える創作姿勢によって描かれた作品の一つ一つは、民家やこれをとりまく自然景観とが一体となりながら画面を構成し、それらはこまやかな筆致と、複雑で微妙な色彩によって表現され、降り注ぐ光、流れる風の匂いを見る人に感じさせ、人それぞれに独特の個人的イメージを喚起させてくれます。

言い換えれば、先生の民家や自然景観を描いた作品のそれぞれは、今なお場所と時間を超えて、創作現場となった土地の風景と、作品を見る人の心や想い出とのあいだを橋渡ししていると言えるのではないでしょうか。

こうした現場主義という創作姿勢と、あくなき写実への志向は、油彩作品においても、またコンテや鉛筆、水彩による素描作品においても一貫したものであり、これは向井芸術の本質を支える大切な要素の一つであると言えましょう。

それぞれの土地の風土をつぶさに肌身に感じ、また目に見えた景観をよどみなく描いた素描作品は、ひじょうに率直に制作現場の様子を伝えてくれるものであり、紙上に描かれた一本一本の伸びやかな描線は、まさに向井先生の息づかいを直截に伝えてくれるものでしょう。

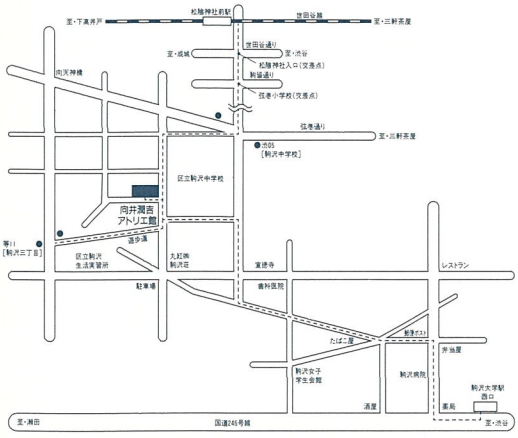


《甲州路 吉野村(神奈川県津久井郡藤野町吉野)》昭和40年～50年代

《旧道の家(長野県)》昭和40年～50年代

《不詳(漁村の風景)》
昭和20年代～35年頃

《岳麓秋色(山梨県)》制作年代不詳



世田谷美術館分館
向井潤吉アトリエ館
〒154 東京都世田谷区弦巻2-5-1
TEL 03-5450-9581

● 最寄り交通機関のご案内

東急新玉川線［駒沢大学］　駅西口　下車／徒歩10分
東急世田谷線［松陰神社前］駅　　下車／徒歩17分

東急バス（渋05）渋谷～弦巻営業所　［駒沢中学校］　停留所下車／徒歩３分
東急バス（等11）祖師谷折返所～等々力［駒沢三丁目］　停留所下車／徒歩３分
東急バス（渋11）渋谷～田園調布　［駒沢大学駅前］停留所下車／徒歩10分
東急バス（渋13）渋谷～砧本村　［駒沢大学駅前］停留所下車／徒歩10分